分野名:人間と文化

担当授業:文学 I 井實 充史

毎年、理工の学生がどれくらい受講するか、関心をもっているが、残念ながら少ない。 理工の学生でも興味を持ってくれるような古典文学の授業ができればと考えている。 テキストは日本の古代文学(古事記の現代語訳)であるが、文学にとどまらず、歴史や宗 教、民俗なども取り入れて講義している。

講義で気をつけているのは話し方である。重要なポイントはゆっくり話したり、2~3 回繰り返したりする。それをきちんとノートに書き留めるように指示している。板書はあまりしない。見出しとなるところや、難しい漢字程度。

出席調査については、毎回出席シートを回してサインをさせている。出席条件は5割を超えること。出席率はいいので、興味をもって聞いているのだと思う。成績は、Aが4割強。出席率が足りていて試験を受けたにもかかわらずFとなる学生も1割強いる。Fとなるのは、出席率がぎりぎりの学生か、極端に作文が苦手な学生のようである。

授業のねらいは、比較的長い文学作品とじっくりつき合っていく経験をさせること。高校までは短編か抄物しか読んできていないので。古事記を最初からなるべく省略せずに読んでいく。あわせて、文学的な諸問題や文学の周辺にある問題を適宜とりあげて、内容のバランスを考えながら説明していく。特に力を入れているのは、現代との比較である。古代の宇宙観、自然観、人間観、社会観、感性や美意識は、現代とかなり違う。その違いを学ぶことで、現代という時代を相対化す眼力を養ってくれればと願っている。

テストは、自筆ノート持ち込み可で論述試験を行う。講義をきちんと聞いて理解しているかどうかをみる。総体的にみて、理系の学生は文章にまとめることが苦手のようだ。出席率が良いのに書けていない学生はどの学類にもいて、そういう学生に悪い点数を付けるときはたいへん心苦しい。ぎりぎりの出席率でできていない学生には、心置きなくFを付けている。テストでは長文を書かせるので、出来不出来ははっきりと分かれる。

(文学の授業はいくつかあるが、おたがいに話し合うことはあるのか、という問いにたいして) 文学はいくつか開講しているが、担当者によって内容、テーマが明らかに異なっていて、重複する部分もないので、互いに相談することは特にない。

分野名:人間と文化

担当授業:心理学 I O3 高谷 理恵子

1年生を対象に心理学の基礎を教える授業ではあるが、一般的な教科書の内容に沿って教えるのではなく、「こころとからだ」というテーマを設定し、そのテーマについて学ぶ中で心理学の基礎的知識も伝えていくという方法をとった。

昨年の教育学会に参加して啓発されたことだが、今年度は「授業で学んだ知識を、今後 の自分自身の生活で活用することができる」という水準をかかげてみた。学生の反応とし ては「一応できる」と思った学生が多いようだった。

240名くらいのクラスではあるが、講義スタイルを、少しでも参加スタイルにできないかと工夫してみた。L 棟ではあるが、授業中に心理学実験を実施してみた。2 人一組になり、プロジェクターの映像をもとに、ストップ・ウオッチで交互に、解答までの反応時間を測る。マークシートの準備や整理など手間はかかるが、学生の評判はよかった。さらに工夫を重ねて対話型の授業をしてみたいが、大講義室でどれほどのことができるだろうか。

テストは 2 回の小テストを実施した。データをどう読むか、どういう意味があるか、といった問題。大教室であるため、となりの人の解答が目に入り易いことから、4種類の問題用紙を準備、となり前後の人と違う問題を解くようにした。講義をきいていた人が、よい成績をとるように設問した。1回目のテストの結果は学生にフィードバックし、正答率が悪かった問題については授業中に解説をした後、二度目のテストにも、もう一度同じ問題が含まれるようにした。

出席をバーコード・リーダーのようなものでとれないものか。それと LIVE CAMPUS を結んで、出席したひとが LIVE CAMPUS 上に意見を書き込み、それに担当者が回答を書き込む、という仕組みができたらいいと思う。

(心理学はいくつか開講されているが、担当者同士で、話し合うことはあるのか、という問いにたいして) 話し合うことはない。心理学 I は基礎的心理学であり、心理学 II は 臨床的心理学、というちがいはある。

分野名:社会と歴史

担当授業:地理学 I 末吉 健治

想定していた学生は、高校で地理を受けたことがあり、地理は暗記科目だと思っていた学生。地理学はそれとはちがうよ、ということを示すために、はじめに高校の地理の教科書をとりあげ、事柄をちがう角度から見てみる、ということをする。授業のねらいは、空間的視点の大切さに気づいてもらうことだ。

授業はパワーポイントを使用。資料はWEB上に掲載、学生は自分でダウンロードして準備、これは授業の予習となるかと期待してはいたが、それは少し無理。資料には、許可を得て掲載した教科書からの写真や、じぶんで撮影した写真など、とにかくいろいろな景色を満載してある。学生は自分の実家や福大以外の心象風景をもっていない。さまざまな景色にふれさせたい。

100名くらいの出席で、興味ある、なし、がかなりはっきりと分かれる。1割くらいが A 評価、人間学類が多い、理工の学生は文章が書けない、という感じがする。

小テストをランダムに 3 回、2 回以上受けること、といってある。レポートは手書きで 10 枚、4000 字。白地図に分布を記入、説明、そしてその分布の原因を書く。テストは論述。 小テストと同じ問題を 2 問ふくむ。4 つくらいのトピックのうちひとつを選択、内容をまと める。概念、理論の説明、といった内容。

分野名:自然と技術

担当授業:数学Ⅱ 中川 和重

今年度現職に着任したので数学 II 担当は初めてとなる.

講義の主な内容は高校までの数学で自然と導入されている概念を再確認することである. 講義での目標は、高校で初めて導入される『極限』をキーワードに据えて、とくに実数を はじめとする数の概念についての理解を図ることに設定した.

出席状況は、登録者 140 名強に対して概ね各回 100 名前後の出席があった. 出席状況は 月曜1限であること、冬季の降雪による遅れを考慮すると8割ほどの 120 名弱が最後まで 履修していたことが伺えた (懇談会後に行った出席確認の集計による).

講義では概念の導入から始めたためはじめの数回でやめてしまった学生も見受けられる (出席動向からこれらの学生の大半は2年次以降であった). これは,簡単なことでも新し い概念を受け入れることに抵抗があるためと思われ,また,具体的な問題・計算に対して は,うまく解けない学生が散見された.

今年度は、はじめに基礎的な概念の導入に焦点をあてて講義の組立てをしたが、次年度以降は、具体的な問題から焦点を当てるという講義の組み立ては一つの方法と考えられる. あわせて、切り口の変更、ミニット・ペーパーを利用した習熟度の緻密な調査、TAを活用した習熟度の向上を図る必要がある.

レポート等の作成においては、文系をはじめ理工系の学生を含めて数学のレポートを作成するのが初めてなのか、構成が読む人を考慮していないレポートが多く見受けられた. また、講義においては手帳サイズのノートしか用意していない学生がおり、板書を基本とする講義では考えてほしものである.

また, 高等学校における指導要領改訂から確率・統計に関する内容が増加したこと, 昨 今話題に上がっているビッグ・データの話題の導入に関しては, 時間的制約, 各学類にお ける統計学, 情報学との住み分けから中心的に扱うものではないと言える.

分野名:自然と技術

担当授業:エネルギーの科学 生田 博将

5名の担当者で、毎年、交代で担当している。共通教育なので、文系、理系、どちらの学生にも理解できるようにこころがけている。

ただし理解してもらっているかどうかは、わからない。テストの結果によれば、文系の学生にとっては、計算問題はむつかしいようだ。高校の授業の内容をもとに例題をだしたり、レポートの課題を指示したりしている。またシラバスに、高校で学んだ「仕事とエネルギー」「反応熱と熱科学方程式」の復習をしておくこと、と書いてあるが、高校でそもそも物理をとっていない学生がいる。

数式などは、比重としては三分の一くらいの重要性。黒板に書いたとおりの数式なら理解できるが、少し変えるともう理解できないようだ。しかし授業の性質上、基本的な計算ははずせない。また化学の基本概念なども必要ではあるが、学生は知らない。

(エネルギーはいま社会の中心的な問題になっているのではないか、という問いにたいしては) エネルギーについては、現在、関心がたかまっていて、自然エネルギーやその買い取り制度について話すこともあるが、社会状況の変化が早い。

分野名:自然と技術

担当授業:生命の科学 O2 小山 純正

生命科学を自分自身も含めた身近な現象として考えてもらうため、食物やそれらの料理 法、架空の動物や超常現象など、親しみやすい話題を導入として、生命現象に関連する物 質や脳の働きについての講義を行った。身近な現象を話題にすることによって、学生はあ る程度興味を持って授業に臨んでいたと思われる。ただし、「身の回りのさまざまな現象を、 脳科学の言葉によってきちんと説明できるようになる」ことを目指したが、学生の理解が そこまで達していたかは疑問である。

基本的な常識問題や授業の復習問題を解答させたが、理工の学生の正答率が他学類の学生よりも低かったのが意外であった。

講義では多くの図を配布し、講義資料は Live Campus で公表した。学生には好評であったが、配布する資料が多いと学生はノートを取らなくなる。

出席者はいつも 250 名前後であったが、最終試験は 300 名ほどが受けていた。授業に出なくても試験さえ通れば何とかなるという学生の認識は改めさせる必要がある。

途中で一回、レポートを提出させた。試験の点数とは相関せず、興味あるレポートを書いてくる学生も見受けられた。もう少しレポートを書いてもらってもいいかもしれないが、読むのが大変ではある。次回担当するときも、身近な現象を題材として、生命現象に興味・親しみを持ちながら、生命の本質を理解させるような授業を行いたい。

分野名:総合科目

担当授業:プロフェッショナル論 丸山 和昭

この科目を担当して 3 年目になる。はじめの予想としては、経済学類の学生が多いかと 思ったが、そうでもない。 4 学類の学生が受講する。

この授業では、学生になにか、やってもらうということをねらいとしている。学生たちは、学類をこえてグループを作る。自己学習の資料としては、LIVE CAMPUS に「なるにはBOOKS」シリーズなどを掲載。事前に自己学習課題を課し、調べてきた内容などに基づいて、授業中のグループワークをおこなう。

NHKの番組「プロフェッショナル」の DVD も利用。職業について理解を深めることが テーマの一部となっているため、キャリア形成論・キャリアモデル学習と重なる部分もあ る。

学生のワークシートに毎回目を通す。いいものを学生に紹介。ワークシートとレポート、 グループワークでの参加で評価。点数がどうしても甘くなってしまうので、どのように質 の評価を行うのかが課題であると考えている。

分野名:総合科目

担当授業: 囲碁の世界 飯島 充男

15回のうち6回はプロ(日本棋院棋士七段)の方が担当、テキストは大学生向けのものがすでにあるので、それを使用。のこり9回を飯島が担当。学生は受講制限をして、39人がほぼすべてはじめての人、6人が上級者でアマの高段者も含み、この6人がはじめての人の面倒を少し見る。5回以上の欠席は不合格。

先を読む力をやしなう、というのが、この授業のねらいになるか。キャリア・デザインに通じるところがあるかとも思う。またプロの話はじつにおもしろい。碁盤の解説ではあるが、話しに広がりがある。

毎回出席していてもルールがのみこめない学生がいて、どうしたらいいか、困った。また今回はルールを習得するだけでおわったような気もするので、次回は、ルールを知った上で、囲碁が楽しめるようにできれば、と考えている。

時間中に学生同士、対局。対局カードを作成。勝ちの経験がないというのは、いいことではないので、対戦を工夫して、なんとか勝ちの気持ちを味わえるようにしている。また負けの経験も大事でもある。

使う碁盤を今回は6路盤、9路盤、19路盤としたが、あいだにさらに13路盤をいれたらいいかもしれない。

分野名:総合科目

担当授業:原子力災害と地域 清水 修二

いまの 1 年生は、こちらが思うほど原子力災害に関心がないのが現実であり、また放射 能の知識はきわめて乏しい。それらを前提にしての授業となる。

水曜日の 2 時限は「地域論」と重なり、一部の学生には不都合だったようだ。また「災害復興支援学」という総合科目が別にあるので、今年は本講義では「復興論」は外した。

授業ではパワーポイントを使い、写真、図表などヴィジュアルなものを多用した。『10万年後の安全』という映画も見せた。外部講師は、今回は回数をしぼって2人にとどめ、15回全体としてまとまりをつけることを重視した。最後の回に全体のおさらいをして、1セメスターでなにを学んだか、学生が全体として把握できるようにした。

授業内容に学生は興味をもったようだ。テストでは、ことばの意味を問うことから始まって、今回の災害がもつ社会倫理的な問題点を論じるところまで出題した。成績は良好。

地域論とか災害論とか、今回の災害を扱った授業がいくつもある。内容の調整が必要だとは思わないが、COC 事業のもとで、全体の目配りはしておくほうがいいのではないか。

分野名:総合科目

担当授業:小さな自治体論 千葉 悦子

これは、はじめは行政学類の授業だった、そこに開放科目であったので、他の学類生もはいっていた。震災前、飯舘村の地域づくりの試みについて、6人でまとめてテキストにした。それをいまでも使っているが、震災後、少し時間がたってしまったので、このテキストとどう折り合うか、悩んでいる。

学生は飯舘村のことを知らない、それを前提に授業をしている。今回は飯舘村から2人、 ゲストスピーカーとしてきていただいたが、学生は興味をもったようだ。岩崎さん、塩谷 さんの共著が岩波新書にあるので、事前にそれを読み、まとめる、そのあとでゲストスピ ーカーの話しをきく、という流れにした。

一般的な学生の要求でいえば、パワーポイントを使ってほしい、動画をいれてほしい、 ということになる。紙は人気がない。討論についても、したい、という学生もいれば、し たくない、という学生もいる。

ねらいは達成されたかというと、どうでしょう。この授業は、はじめは小さな自治体でもこんなことをしていますよ、という紹介からはじまった。これから授業でなにをめざすのか、たとえば「小さな自治体をよみがえらせる!」といったことになるのか。またグループで担当しているが、どうまとまりをつけるか、考えなければならないが、それも授業でなにを目ざすかによるだろう。

分野名:総合科目

担当授業:社会思想入門Ⅱ 伊藤 宏之

震災の前後を比較してみると、現在、学生の社会意識は強くなっているのではないか。 この授業は、「個人、社会、国家」を具体例をとおして考えることをねらいとしている。今 年度は、新聞記事などと日本国憲法を素材としてとりあげた。

非常勤おふたりの方に4回、講義をしていただいたが、あとは伊藤が担当。1時間ほど講義、25 分ほどかけて、毎回、学生にレポートを書いてもらう。いろいろなテーマをとりあげ、論じ方としては、事実をふまえ、論点を組み立てるように求めた。70 数名くらいを毎回、読む、数行のコメントを付す。1回で1~5の評価を記入する。これは時間がかかる、長い時は4時間くらいかかってしまう。そのうちのいくつかを「レポート整理」として次週に学生に配る。学生も反応してくれた。

テストは、これまでの授業であつかったことのうち、印象に残ったことをとりあげ、その理由を書いてもらった。27年度は金井先生が担当する。



7.その他のFD活動

その他のFD活動

いますぐ使える! 学内ICTツール活用 ハンドブック

2015



作成:教務課教務情報担当

協力:総合教育研究センター(高等教育開発部門)

いますぐ使える 学内ICT_{ツール活用}

2015

このパンフレットについて

大学教育の可能性を高める手段として、ICT(情報通信技術)を効果的に活用した実践に大きな期待が寄せられています。福島大学でも、オンライン上での授業資料の共有やWebアンケート機能を備えたLiveCampusなど、授業に役立つ各種ICTツールの導入を進めてきました。

本冊子「いますぐ使える! 学内ICTツール活用ハンドブック(2015)」では、福島大学において全学で利用可能なICTツールの概要をまとめたものです。第1章は、LiveCampusを通じて、授業の資料掲示や、レポート提出、小テストをWeb上で行うための手順を紹介しています。第2章では、Clicker、OHCなど、教員が所属を問わず教務課で借りることのできるICT機器の内容と使い方をまとめました。第3章では発展編として、反転授業やMOOCなど、大学教育におけるICT活用の最近の動向を扱っております。

また、本冊子の発行を機に、教務課では上記のようなICT 活用に関する相談窓口を、教務情報担当に設置いたしました。 LiveCampusをもっと上手く活用したい、ICT機器を授業に 導入してみたい、こんなICT機器を大学として導入して欲し い、などの質問・要望を、教務課教務情報窓口、もしくは以 下のアドレスにて受け付けております。

なお本冊子の内容は、今後、Web上に掲載するとともに、 適宜更新を図っていきたいと考えております。ハンドブック が、先生方の授業の効率化や充実に役に立つものとなるよう、 継続的に取り組んでまいりたいと思いますので、よろしくお 願い申し上げます。

教務課教務情報担当

Tel: 024-548-4070 Mail: kvomujoho@adb.fukushima-u.ac.ip

※作成協力総合教育研究センター(高等教育開発部門)

目次

第1章 – LiveCampus(ライブキャパス)	
⊚LiveCampus (LC) とは	• • • • 3
◎LCで学生に連絡を送るには	• • • • 5
◎LCで資料を配付するには	8
⊚LCでアンケートをとるには	• • • • 11
◎LCで小テストを課すには	• • • • 15
◎LCでレポートを課すには	• • • • 20
第2章-教務課で借りることのできるICT機	幾器
◎教務課での貸し出し機器と利用方法	• • • • 25
⊚Clicker(クリッカー)	• • • • 26
◎OHC(書画カメラ)	• • • • 29
◎その他の貸し出し機器	• • • • 31
第3章-ICT活用発展編	
◎大学におけるICT機器活用の動向	• • • • 33
◎ICTの授業への活用例	• • • • 34
◎近年のICT事情〜MOOC(ムーク)〜	• • • • 36



LiveCampus (LC) とは

学生への連絡・授業資料の配布・アンケート・レポート・ 小テストを、Web上で行うことができるシステムです。 福島大学の教員であれば、だれでもご利用いただけます。 (福島大学の非常勤講師の方もご利用いただけます。)



たとえば、、、

LCの基本機能として、左のように授業の受講学生全体に対して一括して連絡を送ることができます。学生自身が連絡を確認したか、チェックすることもできます(詳しくは5頁をご覧ください)。

LCはここがすごい

上記の学生への連絡機能の他にも、LCを授業で活用することで、

- ●個別の履修学生に対する連絡(詳しくは5頁)
- ●授業資料の事前配布・事後配付(詳しくは8頁)
- ●個別授業に応じたアンケートの設計と実施(詳しくは11頁)
- 小テストの実施と自動採点(詳しくは15頁)
- ▶ レポート等の提出物の管理(詳しくは20頁)

などがWeb上で可能となります。本ハンドブックでは、これらの機能を利用するための基本的な設定手順を御紹介いたします。各機能の使い方の詳細や、疑問などがあれば、ぜひ教務課までお問い合わせください。



LiveCampusへの アクセス方法

1 ☆福島大学HP「在学生の皆様へ」のページへ





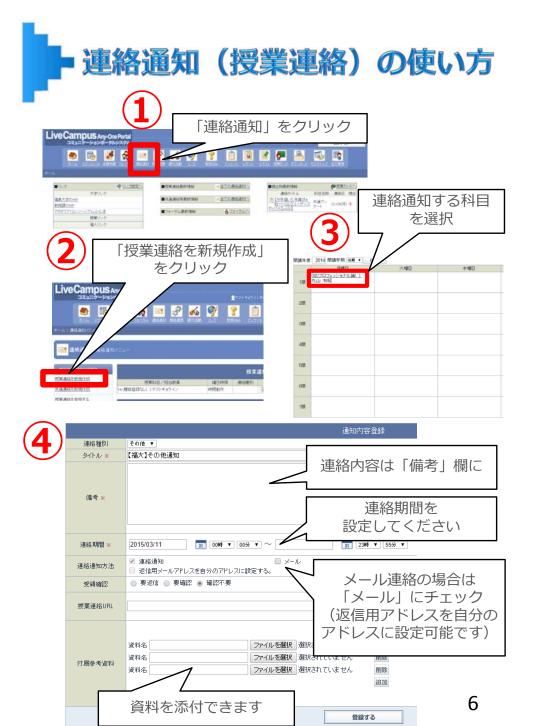
LCで学生に連絡を送るには 〜連絡通知(授業連絡)〜

LCでは、授業の履修者に対して連絡を行うことができます。 履修者全体への連絡だけでなく、個別の履修者にも連絡を 送ることが可能です。必要に応じて、ご利用ください。

	通知内容登録	
連絡種別	その他 ▼	
タイトル ※	【大学で学ぶ】第8回の予習内容について	※50文字」
備考 ※	第8回の予留内容について連絡します。 付属参考実料のワークシートの内容を記入のうえ、 FPM したものを第8回の授業にもってきてください。	※999文字
連絡期間 ※	2015/03/11 31 0089 v 00% v ~ 31 2389 v 55% v	※カレンタ または、半 ください。(
連絡通知方法	☑ 連絡通知□ メール□ 返信用メールアドレスを自分のアドレスに設定する。	※返信用、 ス)を設定

学生の登録メールアドレスに転送も可能

- ●LCによる授業連絡では、連絡期間(授業連絡をLC上で提示する期間)の設定や、付属参考資料の添付が可能です。
- ●授業連絡に登録した内容は、連絡対象として指定した学 生のみ、LCの画面にて閲覧できます。
- ●また連絡通知方法として「メール」を選択すると、 LCに 学生が登録しているメールアドレスにも、連絡内容が転送 されます。その際には、教員のメールアドレスに、学生か らの返信を求めることも可能です
- ※ただし学生がLCを通じて教員側に直接質問などの連絡を送ることはできません。メール配信機能や返信機能の詳細については、教務課教務情報までお問い合わせください。



ŀ

連絡通知(授業連絡)の使い方

- ・授業履修者全体への連絡の場合は「全体に通知する」をチェック ・個別の履修者への連絡の場合は「個別に通知する」をチェック



最後に上記画面の「登録する」をクリックすると 指定した学生に授業連絡が送られます



授業連絡の取り消し、修正を行う場合は、 連絡通知メニューから該当の授業連絡をクリックしてください

※その他、授業連絡に関わる操作で不明な点等があれば、 教務課教務情報までお問い合わせください。



LCで資料を配付するには ~ダウンロード(授業ダウンロード)~

- ●LCの「授業ダウンロード」機能を用いることで、担当する科目別に参考資料などをLC上にアップロードすることができます。
- アップロードされた資料については、履修学生であれば、いつでも自由にダウンロードすることができます。
- 予習のための授業資料の事前配布や、復習のための授業 資料の事後配付など、幅広い活用が可能です。

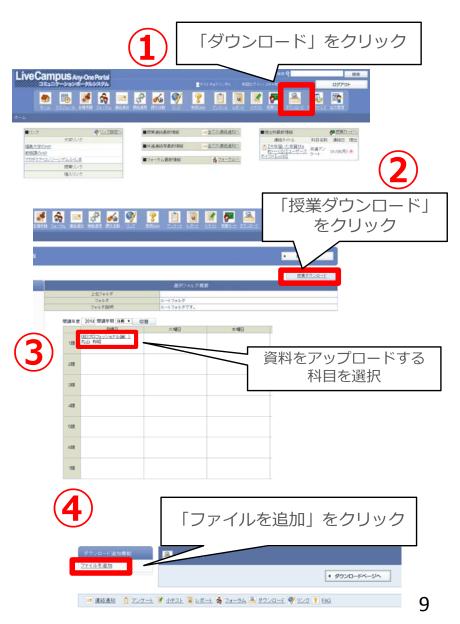
こんなときは

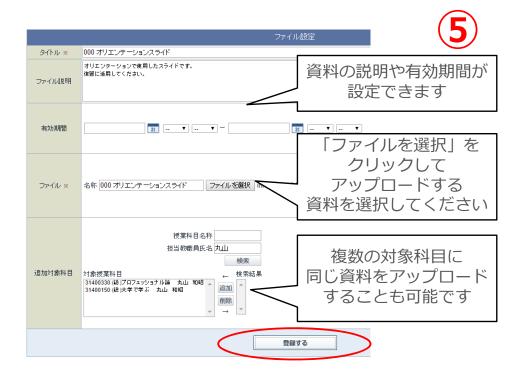
- ・履修者が多くて資料配布に時間がかかる!
- ・資料の枚数が多くて印刷が大変!
- ・早めに学生に資料を配布して予習させたい!
- ・授業後に資料に修正を加えたい!

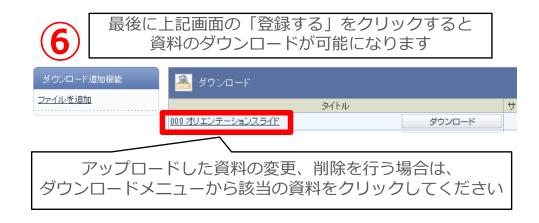
ファイルをアップロード!!

ダウンロード ▶ 技業ダウンロードファイル参照 4 メニューへ戻る						
2014年度(総)プロフェッショナル論() [月曜日1限[後期]] 丸山 和昭					
	ファイル情報					
授業科目	31400330(総)プロフェッショナル論 丸山 和昭					
タイトル	001 バイロットになるには	ダウンロード				
ファイル	001 パイロットになるには.pdf					
ファイル説明	001 パイロットになるには					
サイズ	2MB					
有効期間						

・グウンロード (授業ダウンロード) の使い方







※その他、授業ダウンロードに関わる操作で不明な点等があれば、教務課教務情報までお問い合わせください。 10

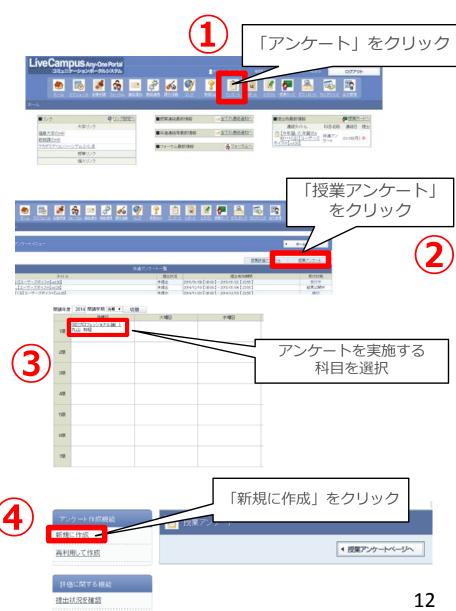
LCでアンケートをとるには ~アンケート (授業アンケート) ~

- ●LCでは、簡単なWebアンケートを実施することができます。全学同一の設問で行う授業評価アンケートとは異なり、個別授業に応じたアンケートの設計が可能です。
- 設問は選択式や自由記述式など自由に組み合わせて作成することができます。
- また匿名アンケートとするか、実名アンケートとするか 等も選択可能です。
- ●授業の理解度の把握や、質問の受付など、幅広い利用が 考えられます。ぜひ活用を御検討ください。

たとえば授業の理解度の把握に利用

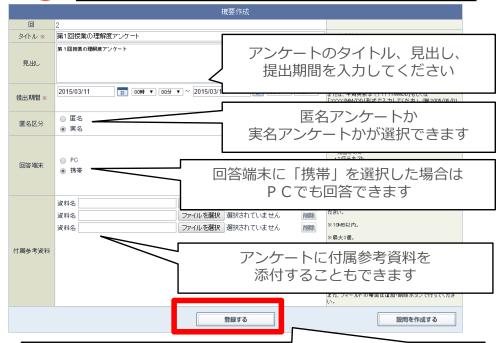
	プレビュー
第1回授業の理解	引きついて
	付属参考資料
Q1	第1回の授業内容は十分に理解出来ましたか。 十分に理解できた やや理解できた あまり理解できなかった まった〈理解できなかった まった〈理解できなかった
Q2	授業内容について質問があれば記入してください 成績評価の基準について、もう少し詳しく教えてください。







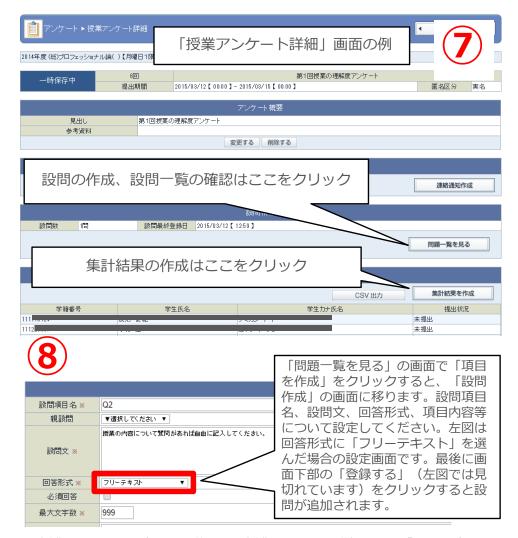
アンケートの概要を作成します



「登録する」をクリックすると授業アンケートメニューに移ります



授業アンケートの変更、削除、設問一覧の確認、設問作成、連絡通知、 回答状況の確認、集計結果の作成を行う際には授業アンケートメ ニューから該当のアンケートをクリックしてください。次頁に示す 「授業アンケート詳細」の画面が表示されます。



- ●授業アンケートの各設問の修正は、授業アンケート詳細画面の「問題一覧を見る」から行えます。また問題一覧の「プレビュー」を使うことで実際の回答画面のレイアウトが確認できます。
- ●全ての設問の作成が終わった段階で、授業アンケート詳細画面の「連絡通知作成」をクリックし、学生に授業アンケートについて連絡してください。<u>連絡通知</u>が行われないと、学生は授業アンケートに回答できませんので、ご注意ください。
- ※作成したアンケート内容は、別のアンケートへの再利用も可能です。 その他、授業アンケートに関わる操作で不明な点等があれば、教務課教 務情報までお問い合わせください。 14



LCで小テストを課すには ~小テスト~

- ●LCではWeb上で小テストを行うことができます。自動採点も可能です。採点と採点結果のフィードバックに要する時間を大きく短縮することが期待できます。
- 設問は選択式や自由記述式など自由に組み合わせて作成することができます。
- ●問題ごとに模範解答と配点、解説を登録することができます。また、模範解答と配点の登録により、自動採点ができるようになります。
- ●授業の理解度の把握や、成績評価への活用など、幅広い 利用が考えられます。ぜひ活用を御検討ください。

小テストによる理解度確認



模範解答と自動採点

- 小テストの使い方

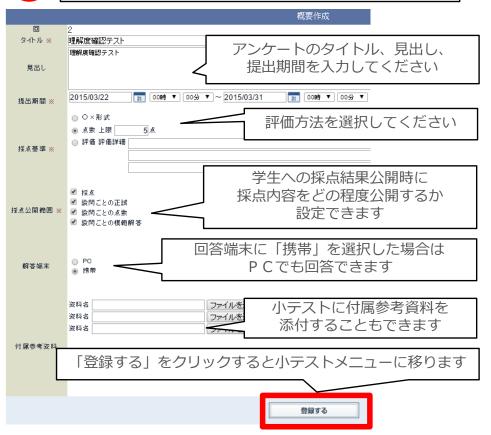








小テストの概要を作成します

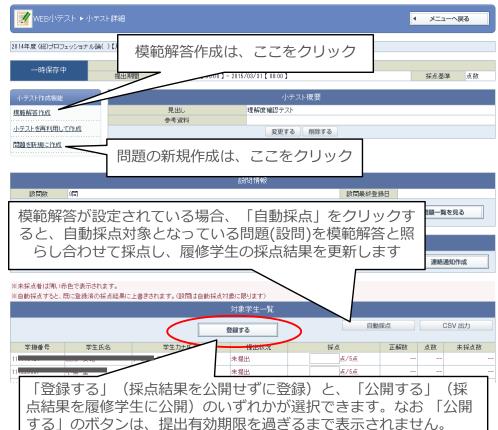




小テストの変更、削除、問題作成、模範解答作成、連絡通知、採点を 行う際には小テストメニューから該当の小テストをクリックしてくだ さい。次頁に示す「小テスト詳細」の画面が表示されます。

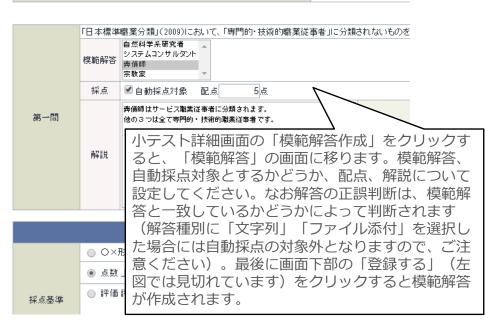


「小テスト詳細」画面の例



設問項目名 ※ 第一問 ▼選択してください ▼ 「日本標準職業分類」 (2009) において、「専門的・技術的職業従事者」に分類されないものを1つ選びなさい。 「問題を新規に作成」をクリックすると、 設問文 ※ 「設問作成」の画面に移ります。設問項 目名、設問文、解答種別、項目内容等に □ 自然科学系研究者 ついて設定してください。左図は解答種 システムコンサルタント - 葬儀師 別に「複数選択リスト」を選んだ場合の 宗教家 設定画面です。最後に画面下部の「登録 する」 (左図では見切れています) をク 最小選択数 リックすると設問が追加されます。 表示項目数 ※ 4

模範解答 - 見出し 理解度確認テスト 付属参考資料



- ●小テストの各設問の修正は、小テスト詳細画面の「問題一覧を見る」から行えます。また問題一覧の「プレビュー」を使うことで実際の回答画面のレイアウトが確認できます。模範解答を修正する場合は、小テスト詳細画面の「模範解答作成」をクリックしてください。
- ●全ての設問、模範解答の作成が終わった段階で、小テスト詳細画面の「連絡通知作成」をクリックし、学生に小テストについて連絡してください。連絡通知が行われないと、学生は小テストに回答できませんので、ご注意ください。
- ●小テスト機能で作成した全課題の提出状況、採点結果は、小テストメニューの「提出状況を確認」をクリックすると確認できます。

※作成した小テスト内容は、別の小テストへの再利用も可能です。その他、小テスト機能に関わる操作で不明な点等があれば、 教務課教務情報までお問い合わせください。



LCでレポートを課すには ~レポート~

- ●レポート等の提出物管理を、LC上で行うことができます。 実施した全ての課題の提出状況を一覧で確認できるので、 提出物の管理が容易です。
- ●LCでレポート課題を作成すると、履修学生に対してレポート提出を促す連絡通知がなされます。未提出の履修学生に対して、レポート催促通知を行うこともできます。
- ●提出されたレポートの採点もLC上で行うことが可能です。 採点結果については公開・非公開が選択できます。公開する場合、履修学生が確認できるのは、自分自身の採点結果 だけです。

提出物の一元管理

LCを使って実施したすべてのレポート等の課題について、提出 状況、採点結果を一括で確認することができます。

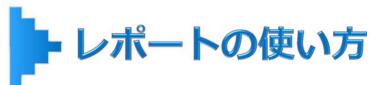
学生一覧								
CSV 出力								
			1			2		3
学籍番号	学生氏名	学生力ナ氏名	提	採	提	採	提	採
11			済	3点/3点	済	3点/3点	済	38点/40点
1		- T	未	未	未	未	未	未
11	严禁	オートカ	未	未	未	未	済	40点/40点
1		Table 1	済	3点/3点	済	3点/3点	済	35点/40点

選べる3つの採点方法

レポート毎に採点方法を、「○×形式」「点数形式」「評価登録形式」から選択することができます。

19

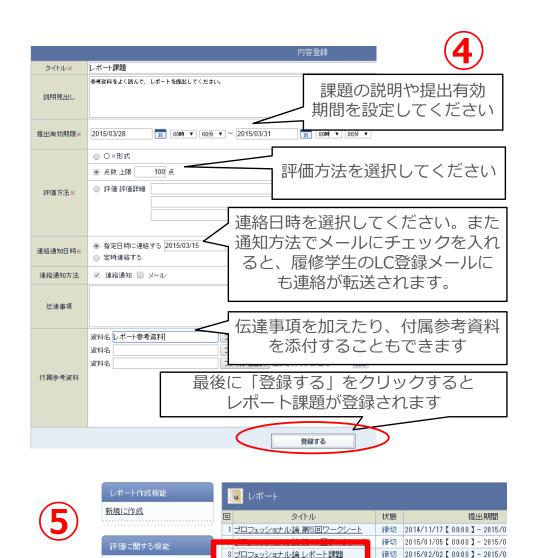












レポート課題の変更、削除、提出物の確認、催促通知、採点を行う際にはレポートメニューから該当の資料をクリックしてください。次頁に示す「レポート詳細」の画面が表示されます。

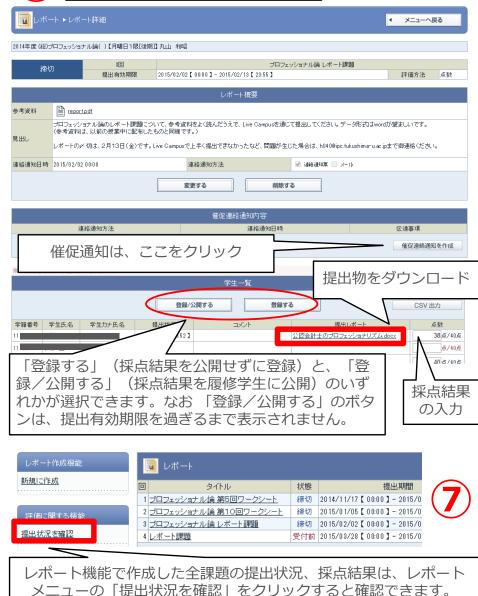
4 レポート課題

提出状況を確認

受付前 2015/03/28【00:00】- 2015/0



「レポート詳細」画面の例



※その他、レポート機能に関わる操作で不明な点等があれば、 教務課教務情報までお問い合わせください。 23

第2章

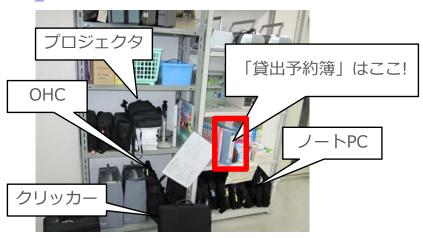
O TESICT MAR

教務課での貸出機器と利用方法



OHC(書画カメラ)

その他の貸出機器





あらかじめ 「貸出予約簿」に 利用日時を記入して ご利用ください

Þ

Clicker(クリッカー)

受講者からの試験・アンケートの回答を、授業中にリアルタイムに確認することができるツールです。現在、<u>教務課で2セット準備されています</u>。

クリッカーとは

授業中に学生からいち早くテストやアンケートの回答を得たい事がありませんか。そんな時、役立つのがクリッカーです。これは、学生に答えを求めるボタン付きのカードをして所でして瞬時に選択式の答えを得られるものです。



EduClick @

クリッカーは ここがすごい

教員の質問に対する学生の回答結果 は、リアルタイムでスライド上にグラ フ表示されます。学生はレスポンス カードの番号ボタンを押すことで、匿名 性を保ったまま質問に回答することができ ます。その場で項目ごとの回答者の割合を 共有できるので、学生の参加意識がより高い 授業を行うことが可能となります。

資料はパワーポイントで簡単に作成できます。 1セットで約100人まで同時に利用できるので、 受講者が多い授業で意識調査を行う時等、利用方法 は多種多様です。



①インストール

ソフトウェアのインストール

付属のCDをPCにセットし、 ECLancher.exeを実行してください。 問題を実行するPC:

→EduClickHEのインストール 問題を作成するPO: →問題作成アドインのインストール インストーラの指示に従って進むだけでイン ストールは来了します。



各セットに付属しているCDからClickerをインストールします。 インストール時には簡易なマニュアルもありますので、心配はありません。

②問題作成

Microsoft社のPowerPointで 授業の前に問題を作成します。 問題作成については、付属のマ ニュアルを参考にしてください。





先生用リモコン 問題の提示、解答結果の提示などは先生のEduClick で操作を行います。 無線レシーパ 学生と先生のリモコン の操作を受信します。

③授業中・・

学生一人ひとりにリモコンを配布し、事前に作成した問題に回答させることができます。 先生用リモコンを使うことで

先生用リモコンを使うことで 簡易にClickerを操作することが できます。

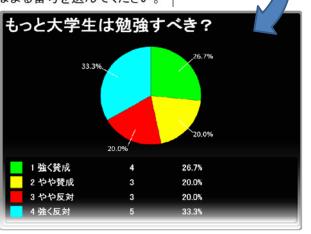
スライドでの問題提示の例

問:「日本の大学生は勉強時間が短い。 もっと勉強させるべきだ。」との主張があります。

あなたは、この考えに賛成ですか、反対ですか? 自分の考えに当てはまる番号を選んでください。



- 2. やや賛成
- 3. やや反対
- 4. 強く反対



Clickerを使った授業の実践例

- ① 学生は教科書で予習をしてくる
- ② 授業ではスライドで予習に関連する問題を提示
- ③ 問題に対しては授業中にClickerで答えさせる
- ④ 答えが分かれる問題がでたら隣同士でディスカッション (自分が選んだ答えについて、選んだ理由を説明しあう)
- ⑤ その後、再度同じ問題を出して、またClickerで答えさせる

※Clickerの利用は学生の集中力や参加意識の持続に貢献する。 また匿名性を担保したうえで回答できるので素直に答えやすい。 そのうえで意見の分かれる結果が表示されると、答えが分かれた 理由について、疑問が喚起されやすい。ディスカッションによる協 同学習を促すうえでも、恰好の題材となる。

(参考)溝上慎一2013「何をもってディープラーニングとなるのか?」 河合塾 編著『「深い学び」につながるアクティブラーニング』東信堂

- OHC(書画カメラ)

OHC(Over Head Camera)とは印刷物をプロジェクターに投影したい場合に使用する機械です。 現在、教務課で3セット準備されています。



OHCとは

業中に、手書きのメモや、 教科書のあるページだけを プロジェクターに映した

プロジェクターに映したい時はありませんか。そんな時に使えるのが、OHCです。機器自体に、プロジェクターをつなげることができ、カメラのリアルタイムの映像を映すことができます。

こんなときは OHC!

きい教室で印刷物・立体物 を履修者に大きく見せたい。

コピーできない資料を、 画面に映したい。資料に 書き込みをしながら説明 をしたい。手書きのメモ を見せたい。



- OHCの使い方

操作は簡単

属のケーブルで、 OHCとTV(もしく はPC)とつなぎま す。拡大や縮小、映像の停 止やミラー反転等も機器ボ タンで操作可能です。



実際に使ってみる



作が簡単な ので、する に使うこと ができます。配布が できない資料や実際 に資料に書き足しな がらの説明時に役立 ちます。





ノートPC

ワーポイントをスクリーン に映したり、DVDを放映す る際にも利用できます。 Windows7と8の両方を準 備しています。Windows8ではブルー レイの再生が可能です。

プロジェクタ







ビデオカメラ

ミでの発表や模擬授業、フィールドワークの際にご利用ください。その他、授業の振り返りにも応用できます。

第3章

ICT

涯

大学における ICT機器活用の動向

主体的な学修

体的学修の必要性について、中央教育審議会の「質的転換答申」にて、「生涯に亘って学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない、従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を測りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が、主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修(アクティブラーニング)への転換が必要である」と指摘しています。

能動的学修の支援として

三章では、大学教育におけるICT活用の最近の動向として、 「遠隔授業」「反転授業」「MOOC」の三つを紹介いたし ます。これらは、知識の伝達・注入をWeb上で可能とする点



これからの授業のあり方を考える一つの材料となれば幸いです。

ICTの授業への活用例 ~遠隔授業~

遠隔授業とは



技術の発達に伴い、従来 の対面授業をネット環境 を用いて行うことができ るようになりました。特に演習等少人 数で行う授業で活用が期待できます。 遠方の学生の通学時間短縮や出張先で の授業の実施、場所と距離に影響され ずに授業ができ、効率的な指導が行え ます。

色々な可能性

近では、TVやWebなどでもニュースとして取り上げられ、特に3.11以降は、被災地と他県の小中学校間の 交流 授業で利用されるケースも多く、各方面から関心を集めました。また、2015年度からは高校でも遠隔授業が解禁され、授業形

態の一形態として定着するかもしれません。学生だけではなく、より時間的制約が厳しい社会人向けの「Webセミナー」の開催も増え、それと合わせて受講者のタイミングで講義を聴講できる「ストリーミング配信」も行われ始めています。





ICTの授業への活用例 ~反転授業~

反転授業

やスマートフォンを利用して、授業の基本内容を映像コンテンツで予習してから対面授業に臨む学習法です。いつでもどこでも自分の都合の良い時に視聴可能なので、効率的な学習ができます。反転授業は伝統的な授業スタイルからの脱却を提案するもので「教室で講義、知識を伝達→家で復習、知識を定着」という一斉授業から、「家で動画による講義を受け、知識を習得→教室では学んだことをもとに議論、発展的な課題に取り組む」と順序が"逆"になり、「家で講義を受けること」が「宿題」になります。そのため、授業以外の学習・実質的学習時間を増大させることが期待できます。

知識習得から 学習へ

ら成長

従来の予習となにが違うのか?

上 近年のICT事情 ~MOOC(ムーク)~

MOOCとは

MOOCとは「大規模な開かれたオンライン学科」を意味する英語「Massive Open Online Courses」の略です。インターネットを使って受講することができる大規模な講義のことです。

オンラインで、基本的に無料で講義を受けることが可能で、インターネット環境さえあれば、誰でも大学の講義を受けることができます。講義内容も、物理や化学、純粋数学といったアカデミックなものから、コンピューターや音楽、美術といった身近なものまで多岐に渡っています。



MOOCは世界規模

MOOCは、世界の大学で流行となっており、スタンフォード大学やハーバード大学などの超一流大学をはじめ、世界中の大学の講義が次々と公開されています。MOOCの代表的なものには、スタンフォード大学の教授らが創立した「Coursera」、マサチューセッツ工科大学とハーバード大学による「edX」、スタンフォード大学の元教授らが立ち上げた「UDACITY」、などが挙げられます。

特に2013年、東京大学は2月にCourseraへの参加、京都大学は5月にedXへの参加を発表したため、日本でもMOOCの認知度が一気に高まりました。

日本では



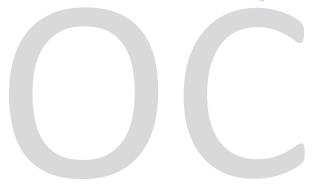
本でもMOOCの流れが起こりつつあり、2012年1月に「schoo」、2014年4月に「gacco」が開校しています。





schoo

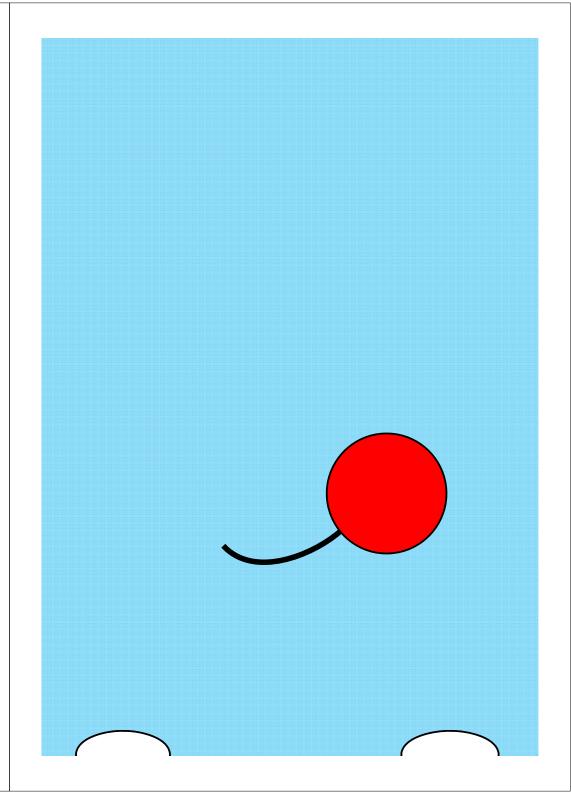
gacco



教育を一歩前へ

福島大学では、東日本大震災で得た教訓をオンライン教育で発信したり、 地域密着型の本学ならではの授業を、世界に向けて発信できる可能性を秘 めています。

他大学の講義の様子を、本学の授業時間内に活用する道も開かれるかもしれません。



学修成果把握のためのルーブリック勉強会

課題発見能力とか発表・討論の能力って、どうやって評価するの?

このような評価の難しい学びの成果を確認する方法として、"ルーブリック"と呼ばれる成績 評価・自己評価の枠組みを取りいれる大学が増えております。このたび、「ふくしまの未来を 拓く「強い人材」づくり共同教育プログラム」では、大学生の<u>初年次ゼミや体験学習の評価基</u> 準の試案をつくるにあたり、先行してルーブリックの作成を進めてきた弘前大学の田中正弘 先生をお招きして、勉強会を開催することといたしました。大学の授業でのルーブリックの作 り方、使い方、あるいは課題発見能力や発表・討論能力等の修得や評価に関心のある教 員・職員・学生の皆様、ぜひ、ご参加ください!

講師: 弘前大学 21世紀教育センター 田中正弘 先生

場所:事務局棟第4会議室

日時:2月20日(金)15:30~17:15

•第1部:15:30~16:30一講演

•第2部:16:30~17:15一座談会

◆第1部のみの参加もOKです!

《申し込み&お問い合わせ》

総合教育研究センター 高等教育開発部門

Tell: 024-548-5243(内線3497) Mail: h040@ipc.fukushima-u.ac.ip

(※当日参加もお待ちしております。)

・弘前大学の基礎ゼミナールにおけるルーブリック(叩き台)

	4	3	2	1	0
1)自主的な学習 態度を獲得すること	授業内容や、関連する 新たな知識や技能に 対して興味・関心を持 ち、常に自主的に学ぶ ことができる。	授業内容に対して興味・関心を持ち、常に 自主的に学ぶことができる。	授業内容に対して興味・関心を持ち、時々 自主的に学ぶことができる。	授業内容に対して興味・関心を持つものの、 あまり自主的に学ぶことができない。	自主的に学ぶことが全くできない。
2)課題発見能力を高めること	重要度の高い新たな 課題を発見し、その課 題解決のために、具体 的な作業計画を立て、 かつ実行できる。	新たな課題を発見し、 その課題解決のため に、具体的な作業計画 を立て、かつ実行でき る。	新たな課題を発見し、 その課題解決のため に、具体的な作業計画 を立てられるが、実行 できない。	新たな課題を発見できるが、その課題解決のために、具体的な作業計画を立てることができない。	新たな課題を発見でき ない。
3)資料(情報)の 検索・収集・整理に 関する基本的な技 能を習得すること	必要かつ信用できる 情報を適切な方法で 収集し、多くの人が活 用しやすい内容に整 理できる。	必要かつ信用できる 情報を適切な方法で 収集し、自分が活用し やすい内容に整理で きる。	必要かつ信用できる 情報を適切な方法で 収集できるが、活用し やすい内容に整理で きない。	必要な情報を適切な 方法で収集できるが、 信用できない内容も含 まれている。	必要な情報を適切な 方法で収集できない。
4)基本的な文章 構成力・発表能 力・討論能力など を獲得すること	自らの考えをレポート や口頭発表で正確に、 かつ分かりやすく説明 でき、批判に対して反 論もできる。	自らの考えをレポート や口頭発表で正確に、 かつ分かりやすく説明 できるが、批判に対し て反論できない。	自らの考えをレポート や口頭発表で正確に 説明できるが、分かり にくい点が多い。	自らの考えをレポート や口頭発表で説明で きるが、不正確な内容 が多い。	自らの考えをレポート や口頭発表で説明で きない。
5)学生と担当教員、 および学生相互に おけるコミュニケー ションの場を作りだ すこと	他の人の意見を聞き、 その内容を理解した上 で、積極的に自らの意 見を述べ、建設的な議 論を構築できる。	他の人の意見を聞き、 その内容を理解した上 で、積極的に自らの意 見を述べられるが、建 設的な議論を構築でき ない。	他の人の意見を聞き、 その内容を理解できる が、積極的に自らの意 見を述べられない。	他の人の意見を聞き、 その内容を理解できる が、自らの意見を述べ られない。	他の人の意見を聞くことができない。
6)安全で健康的 な学生生活を送る ための基礎知識を 習得すること	社会のルールやマナーを理解し、遵守した上で、規則的な生活習慣を継続的に実施し、自らが模範となれる。	社会のルールやマナーを理解し、遵守した上で、規則的な生活習慣を継続的に実施できる。	社会のルールやマナーを理解し、遵守した上で、規則的な生活習慣を断続的ながら実施できる。	社会のルールやマナーを理解し、遵守するものの、規則的な生活習慣を実施できない。	社会のルールやマ ナーを守らない。



目次

- ルーブリック導入の経緯
- パフォーマンス評価
- ルーブリックの見直し
- 成績評価の課題と標準化
- ■まとめ

ルーブリック導入の経緯

ルーブリック導入の経緯(1)

- 弘前大学では、2008年度に採択された特別経費「ティーチング・ポートフォリオを活用したFD活動」の ー環として、ティーチング・ポートフォリオだけでなく、 ラーニング・ポートフォリオの活用も、土持ゲーリー 法一先生を中心に、全学的に推進してきた。
- ただし、ティーチング・ポートフォリオが教育者総覧 として全学で必須の取組へと発展したのに対して、 ラーニング・ポートフォリオの普及は進まなかった。

ルーブリック導入の経緯(2)

- (単なる講義メモではない)本格的なラーニング・ポートフォリオを導入する上で、二つの教育改革が必要だと認識されるようになった。
 - 学生が能動的に学修に取り組む、アクティブ・ラーニング への転換
 - ■ポートフォリオには、学生の自己省察が欠かせないため。
 - ■成績評価方法の改革
 - ■学生が適切に自己省察できるように、ルーブリックの開発利用が 必要なため

基礎ゼミナールでの試行

- 弘前大学の初年次教育科目「基礎ゼミナール」は, 少人数ゼミ形式の全学必修科目であり,アクティブ・ ラーニングへの転換が容易な科目であった。
- そこで、ルーブリックを用いて、科目の達成目標の 到達度を適宜、自己省察させる試みを実施した。
- 自己省察のための学修ツールとして、「学修ポート フォリオ」を試行的に導入した。
 - 平成25年度にポートフォリオの試行開始
 - 平成27年度に基礎ゼミ全体の改革試行
 - 平成28年度から改革版の全学本格実施